

日本三大祭りの一つ「天神祭」は7月24日に宵宮祭、25日に本宮祭を迎える。令和に改元され、新時代に入った天神祭を後世へ継承するため、大阪天満宮の寺井種治宮司と新教育総合研究会「個別指導キャンパス」の福盛訓之代表に語り合っていた。

（聞き手は深田巧、写真は佐々木誠）

大阪天満宮の「御祭神」である菅原道真公は「学問の神様」として知られます。福盛代表は氏地の大阪市北区東天満を拠点に学習塾を経営されています。

福盛 学習塾といえば、経済的に豊かな家庭の子を集めることが相場とされていますが、私は、大学時代に学習塾を開業して以降、授業料を安くしてどんな子どもでも引き受けています。

寺井 私の長女は大学1年、長男は高校1年です。この春はダブル受験でした。私自身、PTA活動などから学校の様子を見させていただきましたが、私が子どもだった頃との違いを実感しました。一番驚いたのは、生徒が先生と友達のように接しているということ。時代の流れかもしれません。そこに礼儀や尊敬はないように映ります。その点、学習塾で道徳心を教えることは素晴らしいと感じます。

福盛 親は子どもの成績が上がってほしいと望んでいます。そのために、学習塾は授業料をいただいているため、双方は売り手と買い手の関係にあります。私たちは「世間よし」も重視しています。つまり、先ほど話したように道徳心や感謝の気持ちを身に付けた良質な社会人を育てることが、将来、社会に出て活躍できれば、まさに「三方よし」となります。

寺井 京都大学を卒業して外務省に入省し、その後、全国最年少で四條畷市長になった東修平さん(30)は四條畷中学、四條畷高校在学時に私の学習塾に通っていました。在学中に私利より世の中に役立つことの重要性を説いていたのですが、市政のため全力で奉仕する彼は私どもの教育の大きな成果の表れです。

寺井 大阪天満宮はボーイスカウト、ガールスカウトの育成母体にもなっています。野外活動だけがする恐れもあるため、時には厳しく指導します。また、天神祭の講社の一つ「天神講獅子(てんじんこうしし)」は子どもたちを中心に約800人が獅子舞や傘踊りを繰り広げます。天神講はもとも江戸時代の寺子屋に

端を発し、学問の神様の道真公を信仰した人々が講を作ったとされています。現在でも、天神講では上下関係や礼儀作法を指導して、ある意味、福盛さんの学習塾と共通しているかもしれません。

寺井 はい、昭和40年代のオイルショックの際は資金不足によって渡御行事がやむなく中止になりました。その時、大阪商工会議所会頭だった佐伯勇さんが、境内の句碑、船渡御へ、見せて浪速の土性骨どしよっほね(作・北山河)を見て、この句を手拭いに染め抜き、経済界に配って協賛金を募り、渡御復活を支えてくれました。これも世間よしの精神だと思っています。

寺井 五輪のために中止になるのはとてもないという思いが氏子の皆さまにあります。来年も、天神祭は予定通り執行行つつもりです。

福盛 政治に興味がない人でも、天皇退位、即位のニュースは関心が高かったはず。時代が改まる改元という貴重な伝統を持つ日本に感謝したい。そして、祭りには歴史、伝統があり、先達の人たちが受け継いできました。そこには、神様の存在があり、地域のつながりがあります。自分一人では生きていけない。天神祭は確実に次世代の育成につながっていると思います。

寺井 「令和になく天神祭について、学問の神様を切り口に語り合っていた。本日はありがとうございました。」

「天神祭は次世代の育成につながる」

「礼儀作法を指導する天神講」



代表

福盛訓之

対談

寺井種治 宮司

てらい・たねはる 1963年生まれ。追手門学院大・国学院大卒。明治神宮禰宜(ねぎ)、大阪天満宮権宮司を経て2018年4月から大阪天満宮第5代宮司。2001年に神道青年会全国協議会理事と神社本庁参与、06年に大阪市立堀川幼稚園PTA会長、12年に全国神社スカウト協議会会長、16年に大阪府神社庁理事と学校法人浪速学院理事。

ふくもり・としゆき 1973年生まれ。大学在学時の19歳で起業し、96年に新教育総合研究会「個別指導キャンパス」を設立。学習塾を全国約300教室で展開し、約1万6千人の生徒が在籍。第21回福盛経営者賞第1位、第1回大阪府男女いきいき事業者表彰優秀賞、紺綬褒章など受賞歴多数。座右の銘は「大きな志、高い倫理観を持つ」。